



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

悪人の自覚

平野喜之



（略歴）
一九六四年京都市生まれ。
浄専寺住職。「生きて罪を償う」井上嘉浩さんを死刑から守る会事務局。金沢大学非常勤講師（数学）。

人は誰でもすべてのことについて、すべての人に對して罪があるのです。人はただこのことを知らないだけなのです、もしこれを知ったなら、すぐ天国が出現するでしょうにねえ！

信じさせ、出家させてきました。直接自分が犯した罪だけでなく、他人をオウム信仰に巻き込んで罪を犯させた、ということまで深く見つめ直すことになったのでした。

七月八日にMr.サンデー「松本死刑囚を知る6人の証言」という番組で、オウム真理教元教祖、麻原彰晃（松本智津夫元死刑囚）が逮捕されたときに立ち会った方が、次のように話しておられました。麻原は、逮捕された瞬間にはブルブル震えていたが、サティアン（オウムの施設）から出て信者の前に姿を見せるときには、胸を張って自分を大きく見せようとしていた、と。この言葉聞いたとき、井上さんが手紙で、「麻原を教

これは、『カラマーズフの兄弟』（ドストエフスキー）の中に出てくるある人物の言葉です。この言葉によって罪の自覚を深めた死刑囚がいました。元オウム信者である井上嘉浩さんです。オウム信者たちが数々の凶悪犯罪に走った背景には、それぞれがオウムの教えを深く信じていたということがあるのですが、井上さんは自らオウムの教えに心酔し、多くの人たちにオウムの教えを深く

悪人というものは、悪人の自覚である。悪人の自覚の内容は宿業の自覚である。

と述べています。つまり悪人とは、罪や悪を犯した人のことではないのです。自らの罪悪を自覚する人であるという意味です。「宿業の自覚」とは、自分が歴史的社会的存在であるという自覚です。ですから「悪人」とはすなわち、自分が歴史的社会的存在であること、自覚し、世の中に起こる様々な出来事を他人事として見ず、自分の責任として感じる人のことを言うのでしよう。

「善人」はその逆で、歴史社会と切り離されたものとして自分を見、世の中の出来事を自分の外に見るので、自分の行為が時代社会を作っていると感じられませんか。だから、世の中の出来事に対して責任を感じないので、善人は、犯罪を起こした人に対しては、その犯罪の責任はすべてその人にあると思ひ、自分には関わり合ひのないこととします。冒頭で紹介した言葉と正反対です。親鸞は、そういう善人も、もし本願力に遇えば悪人の自覚を持つようになると言われます。ブツダは智慧の眼で、人間存在を罪悪深重であり、煩惱具足であると見抜かれます。自分がそのブツダの言葉通りの存在であると気づいたのが、「悪人の自覚」です。そ

れは人と人を悲しみでつなく自覚です。どんな凶悪犯罪が起こったとしても、自分も縁次第では、同じ犯罪を起こす可能性を秘めている。そのことを深く内に自覚することによって、罪を犯した人を自分から切り離して特別視しないのです。我われはややもすれば、凶悪犯罪が起こったとき、その犯人がいかにも異常であり、我われとはかけ離れた存在であるか探ろうとしてしまいがちです。そう見ることによって、自分にはそういう犯罪を起こすような要素がないと思つて安心したので、そしてまた、自分を歴史社会の中の存在として見ようとしなから、その人が犯罪を引き起こすに至った背景にまで思い遣ることがあつたと、しても、自分がその社会を作っている一員である自覚が欠けているために、責任意識が希薄なのです。

すべての責任を一人の人間に見て、その人を死刑にすることに何の疑問も後ろめたさも感じることがない。井上さんに出会う前の私はまさにそうであつたと思ひます。悪人の自覚が芽生えた死刑囚に出会うことによつて、私は善人でしかない自分の姿を教えられたのです。

仏弟子としての歩みをはじめませんか

真宗門徒は、生前に帰敬式を受け、仏弟子となります。帰敬式とは「おかみそり」ともいいます。仏（お釈迦さま）、法（南無阿彌陀仏の教え）、僧（法を聞く人の集まり）の三宝を、人生において尊いこととしていただいて、生活することを誓う儀式です。私たちは現代社会において、苦悩し、迷い、さまざまな課題をかかえながら生きています。帰敬式は、私たちにとって本当に大切なことは何か、よりどころとするものは何かを問い直す人生の再出発の儀式とも言えます。

帰敬式では、髪をおろす（剃る）ことをかたどった剃刀の儀と、釈迦牟尼仏の「釋」の字が冠せられた法名の授与が行われます。別院の報恩講を機に、人生の新たな歩み出しとして、ぜひ帰敬式をお受けください。

日時 2018年11月3日(土)
午前8時30分
会場 高山別院本堂(別院報恩講中)
※10月17日19時~か10月19日13時半~
どちらかの事前学習会にご出席ください。
お申し込みはお手次のお寺を通してお願いいたします。



Table with 2 columns: Date and Topic. 8月28日 親鸞聖人ご命日法座 講題 「ひとえに親鸞一人がためなりけり」 講師 小原 正寛氏 (専念寺) 9月3日 三日のご坊 講題 「嘉念坊上人をいただいてきた意味 - 流罪と真宗門徒 -」 講師 四衢 亮氏 (不遠寺)

秋の彼岸会・永代経法要

Table with 2 columns: Date and Name. 9月20日(木)~26日(水) 午後1時から 勤行・法話 20日(木) 内記 浄氏 (往還寺住職) 21日(金) 帰雲 真智氏 (還來寺住職) 22日(土) 小原 正憲氏 (専念寺住職) 23日(日) 竹田 雅文氏 (東等寺住職) 24日(月) 三島 多聞氏 (高山別院輪番) 25日(火) 小谷 秀道氏 (蓮勝寺住職) 26日(水) 四衢 亮氏 (不遠寺住職)

☎テレホン法話(0577)34(23)13 ☎8月21日~31日:小倉喜信氏「圓城寺」 ☎9月1日~10日:江馬匠氏「光雲寺」 ☎9月11日~20日:内記流氏「往還寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

家族で話そう

人生の

「こんなこと」「あんなこと」

佐賀枝 夏文

『ひだご坊』の愛読者のみなさま、その後いかがお過ごしでしたか。関西では大阪府北部地震がありました。また、その後には西日本豪雨が...

ある日の出来事

ボクの人生は「ある日」の出来事で大きく変わることになりました。それは、昭和31年9月10日の出来事でした。ボクが小学校2年生でした。ボクが育ったお寺の裏のパーマ屋さんから出火して、お寺が類焼しました。お寺は、日本海に面した富山県の魚津という街にあります。お寺は、お寺が火を煽り、市街地の三分の一を焼き尽くす「魚津大火」となりました。

火の勢いが強く、消火が及ばず、夕刻から翌朝まで市街地を焼き尽くしました。その後、親戚のお寺に身を寄せての生活ははじまりました。そのころ、すでに父はお浄土へ、祖父母と母との家族構成でした。間もなく、母が家を離れて暮らした。この日を境に母との「生き別れ」の人生を歩むことになりました。ボクが「人生」を問う機縁がここにあります。このころの傷と悲しみを背負うことになるのですが、ここで読者の方と考えてみ

たいことがあります。ある日の出来事がある人にとって、人生の「転換点」となり「問い」として、また、人生の宿題として課せられることについてです。災害が起きるたび、当事者には大きな「転換点」となり、何かが変わりはじめます。「魚津大火」のあと道幅は拡張され、防災都市として整備されましたが、ボクのころは遅々として修復しませんでした。

ボクの青年期は「悲しみ」と「問い」を抱えての日々となりました。ボクは家でも学校でも目立たない、まるで透明人間のように生きはじめます。そして、「夢見る少年」になりました。現実を逃避して「夢」の世界に生きはじめたのです。「夢想」は、母と暮らす生活でした。このことを機縁に「承の物語」について、また、「転換点」について考え理解することになります。悲しみやつらさと突然に遭遇すると、直撃から逃れて「シェルター」も必要かもしれません。また、「夢想」へ回避することも必要かもしれません。このころは、後にスクールカウンセラーとして配属された学校現場で理解することになりました。あるクラスで孤立した女子中学生がひたすら、「白馬の騎士」という転校生を待ち続けていました。また、イジメを受けた生徒は、緊急避難場所としてトイレを「シェルター」としたことも記憶にあります。このふたつの物語から教えられたことがあります。それは、「白馬の騎士」も「シェルターのトイレ」も大切なものだという事です。第三者からすれば「夢見る」と「シェルターに身を隠すこと」は、認めにくいことかもしれません。しかし、この「まわり道」は、人生の物語には「必要」なことといえるようにおもいます。遠回りのように見え、無駄な時間のようにみえますが、この時間は「ころを癒し」「ころを整理し」「生きることを問う」大切な時間でしょう。青年期は活動期ですから、一見無駄とも見える「放浪の旅」や「引きこもり」も、そのひとの人生の物語には必要な一部であるといえるかもしれません。

人生の「承の物語」は、だれもがはじめてづくしの「出会い」と「遭遇」で彩られます。しかし、出会いも、いいことばかりではありません。今の時代と社会は、人びとが競いあう競争社会ですから、ころころ矢が刺さり、傷つく青年もいます。今回、つづいた「承の物語」は、人生の「起承転結」の青年期にあたります。青年期で遭遇するさまざまな出来事は、そのときには「解決しなくても」、また、「意味がなくなっても」人生のなかで欠くことのできない一部分といえるかもしれません。

次回は藤場芳子さんの「女と男のナムアマミダブツ」です。



飛騨御坊 御遠忌通信 ⑫

第二期工事 順調に進む

昨年12月より着工しております第二期工事について耐震補強工事がほぼ完了し、8月中旬には内陣修復工事が進められます。それに伴い、8月上旬には修復現場の視察が行われ、たくさんの方が観覧に来られました。今後10月20日には修復完了予定です。



「回壇案内

ご回壇は、ご坊の法座を地域寺院においてひらく聞法の場です。

【8月】

- 22日(水) 敬勝寺 [白川村]
23日(木) 明善寺 [白川村]
24日(金) 誓願寺 [片野町]
25日(土) 長圓寺 [朝日町]
26日(日) 寶蓮寺 [朝日町]
28日(火) 専念寺 [鉄砲町]
30日(木) 寶藏寺 [莊川町]

【9月】

- 1日(土) 聖圓寺 [宮川町]
2日(日) 南春寺 [国府町]
3日(月) 浄慶寺 [古川町]
4日(火) 淨永寺 [古川町]
5日(水) 了心寺 [山口町]
6日(木) 蓮勝寺 [莊川町]
7日(金) 長林寺 [清見町]
8日(土) 遊浄寺 [莊川町]
9日(日) 惠林寺 [清見町]
10日(月) 不遠寺 [総和町]
11日(火) 誓願寺 [古川町]
12日(水) 本教寺 [西町]

7月26日~27日

児童夏のつどい in 願徳寺

7月26日・27日に吉城組・願徳寺(飛騨市河合町羽根)にて「であう、つくる、あそぶ~世界は誰がつくっているのかなあ~」というテーマで児童夏のつどいを開催いたしました。7月の豪雨のつめ跡をバスの車窓から見ながら、飛騨各地から59名の子どもたちが集まりました。豪雨から猛暑が続き、何より子どもたちの身体、食事や水分補給に細心の注意を払いました。願徳寺で一緒に手を合わせ、正信偈を唱和し、河合町の自然と伝統文化に触れ思いっきり遊んできました。なかんじょ川での川遊び、香愛ローズガーデンでのバラの採取、山中和紙での墨流し等、子どもたちには貴重な体験ができたのではと思います。



みんなで川遊び!



おいしいカレーいただきます~す!



山中和紙で墨流し体験

そんな自然や伝統に触れる中、講師の白尾公信氏(高山二組・了心寺住職)のお話を聞きました。子どもたちは講師の話に真剣に耳を傾け、「紙の中に雲が浮かんでいる...」ベトナムの僧ティク・ナット・ハン氏の言葉から、紙は木からでき、木は太陽の光と土と水で成長し、水は雲から雨として降ってくる、紙ができるまでに沢山の物が関わっているということを教えていただきました。わたしやわたしたちのまわりの物は多くの物との関係性の中で構成されて生きていることを改めて実感しました。このお話を聞いた後の和紙作りやバラの採取などの体験は一段と違った体験となったのではないのでしょうか。来年度も自然の中で走り回る元気な姿や笑顔の子どもたちひとりひとりと出遇いたいです。



声を合わせておつとめをしたよ!

青少年教化小委員会 白尾 匡

定例法座・法話(午後1時から) 8月28日(火) 小原正寛氏「専念寺」 9月3日(月) 四衛亮氏「不遠寺」 9月11日(火) 三島多聞輪番

どなたさまもお参りください。